

埋蔵文化財最新発掘調査情報

◆朝霞市では、現在70か所の遺跡が存在しています。

川や緑が多く都心にも近い朝霞市においては、宅地造成やマンション建設など大規模開発工事が多いため、記録保存のための発掘調査が数多く行われています。そのなかで、最新の調査成果をお伝えします。

みやはら・つかごしいせき 宮原・塚越遺跡第7地点

調査地：朝霞市根岸台二丁目地内

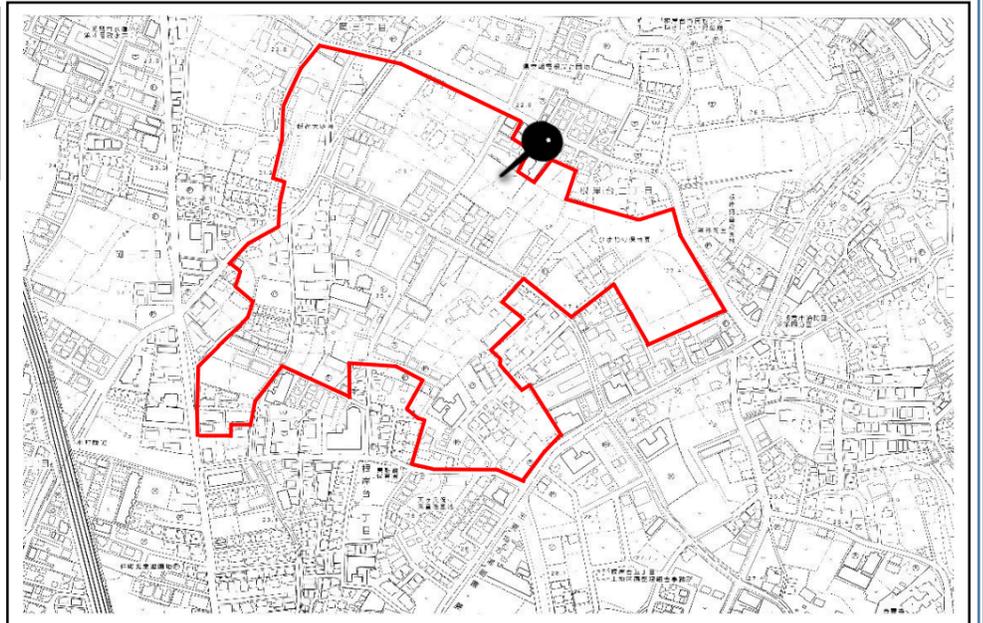
期間：令和6年2月7日～2月27日

調査面積：63.08㎡

◆今回の調査では、集石土坑とピットが確認され、遺物は、土師器・須恵器が出土しました。

集石は、縄文時代に検出される遺構で、多くの石（礫）を集めて加熱し蒸し焼きや石焼きなどの調理をおこなった跡のことを指します。地面に穴を掘り、礫を集めたものを集石土坑と呼び、今回の調査では3基確認されました。

3基とも礫が含まれており、熱を受けた跡や熱を受け割れた跡が確認できました。しかし、土坑内には土が焼けた跡や炭化物といった火を使用した跡が確認できず、この集石土坑で調理をおこなった形跡は確認できませんでした。これは、別の場所で用いた礫を再使用するため集めた可能性、もしくは使用した礫を一か所に集め廃棄したのではないかと考えられます。



宮原・塚越遺跡第7地点 位置図

集石土坑の礫⇒



どんな料理を
作って食べてい
たのかな？



©むさしのフロントあさか

みなみがやといせき
南ヶ谷戸遺跡第2地点

調査地：朝霞市根岸台七丁目地内

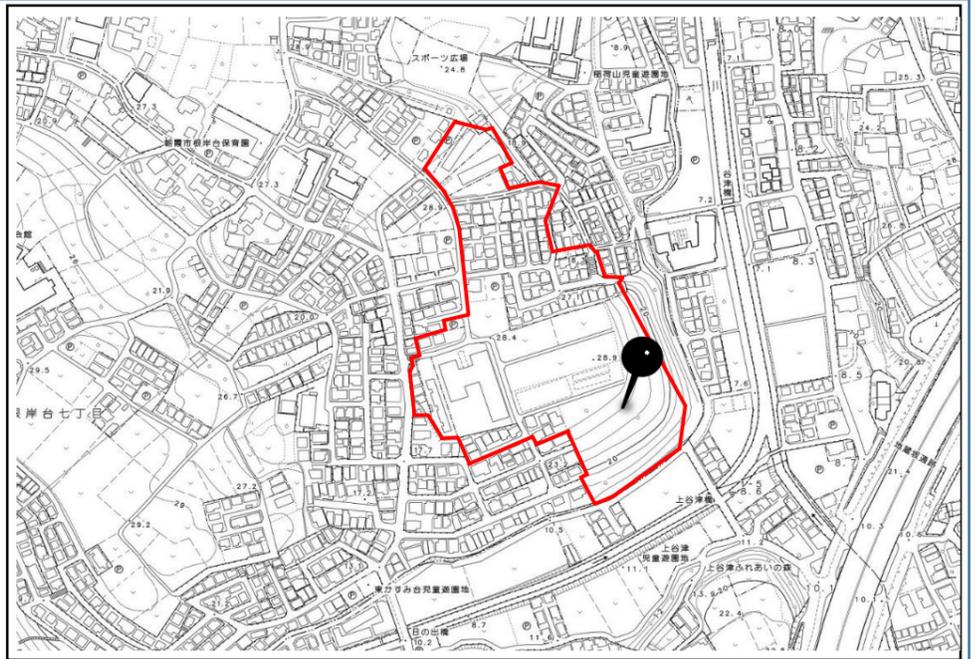
期間：令和5年11月7日～12月27日

調査面積：569.79㎡

◆今回の調査では、炉跡、住居跡、土坑、集石土坑等が確認され、遺物は、縄文土器、土師器、陶磁器、石器等、石製品が出土しました。

炉跡は、いわゆるファイヤーピットと呼ばれる屋外で火を用いた調理施設跡です。縄文時代早期の土器片と一緒に出土していることから、今から約7,500年前の縄文時代早期の炉穴と考えられます。炉穴は、市内では黒目川や新河岸川に面した台地の縁から多く検出しており、越戸川をのぞむ当遺跡でも同様の様相が確認できました。

また、調査区内の崖から少し台地側に入った場所から土坑が検出しました。土坑からは縄文時代の玉（石製垂飾：せきせいすいしょく）が出土しました。石製垂飾には穴が穿たれ紐を通し擦られたような跡も確認されました。このような遺物が出土する土坑は、一般的には墓坑（お墓）であることが多く、埋葬者の副葬品として埋納されたのではないかと考えられています。本土坑は、墓坑と断定できる様相が確認できませんでしたが、土坑の大きさや玉の出土位置などから墓坑であった可能性が考えられます。



南ヶ谷戸遺跡は、今回で2地点目の調査であることから、遺跡の性格はまだはっきりとわかっていませんが、このような珍しい遺物が出土したことから、未調査区域に縄文時代の大きな集落が広がっている（いた）可能性も考えられ、非常に興味深い遺跡となりました。

また、その他にも検出した住居跡は出土遺物から市内では珍しい奈良時代の竪穴住居跡ということが判明しました。市内他遺跡で確認されている奈良時代の住居跡も、当遺跡同様の崖地に面した台地上で確認されています。



第26号土坑 遺物出土状況



出土した石製垂飾



©おさしのフロントあさか



南ヶ谷戸遺跡第2地点 全景写真



検出したファイヤーピット



奈良時代の住居と出土遺物(土器)